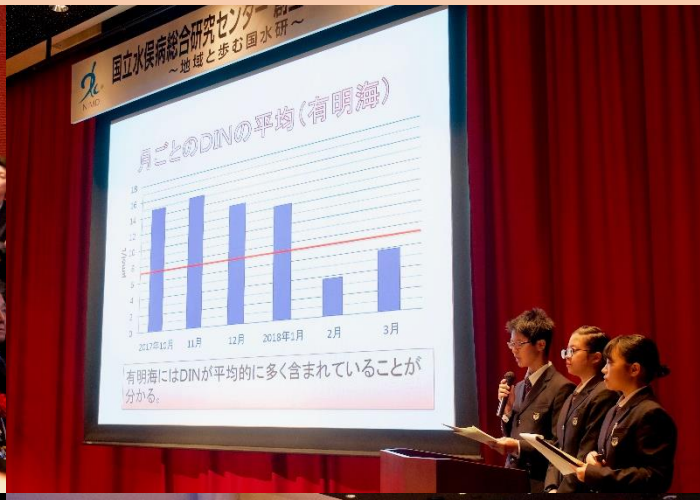
ニ　ム　ド　　プラス　　ユー

NIMD ＋ you

（National Institute for Minamata Disease：国立水俣病総合研究センター）



写真：40周年記念事業より

巻頭言

「NIMD＋you」を手にとって頂きありがとうございます。「NIMD＋you」は、環境省国立水俣病総合研究センターの日々の活動や研究成果を、できるだけ分かりやすくお伝えすることを目的に、2014年に新たに装刊しました。

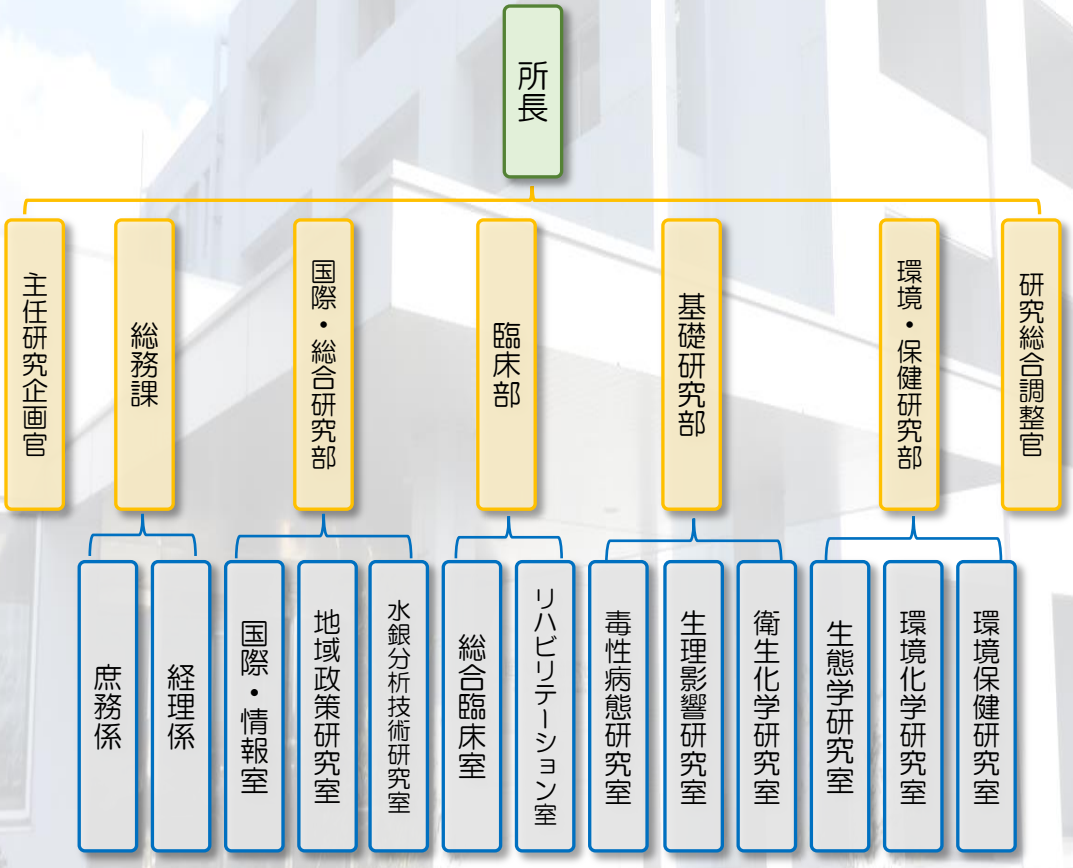
研究室紹介では、研究室の取り組みや成果について新たな情報を発信していきたいと思います。今号では、国際・情報室と水銀分析技術研究室の紹介を行います。また、イベント情報として「40周年記念事業」や「NIMD Forum 2018」について掲載しております。

今後も皆さまのご意見などをお伺いしながら誌面を充実させ、情報発信を行っていきたいと思います。引き続きご支援をよろしくお願い致します。

1．国水研（国立水俣病総合研究センター）研究室紹介

国水研の組織は、以下の組織図のようになっています。各研究室が分野ごとに連なっており日々研究活動を行っています。今回は国際・情報室及び水銀分析技術研究室を紹介します。

毎号、様々な研究室を紹介しますのでご覧下さい。



【施設配置図】

1．管理研究棟
2．リハビリ棟
3．リサーチ・リソース・バンク棟
4．動物実験棟
5．ラジオアイソトープ実験棟
6．特殊廃液処理棟
7．国際研究協力棟
8．共同研究実習棟

1．研究室紹介　国際情報室

所掌する業務について

国際・情報室は、①国際会議の運営や海外研究者との共同研究等に関する調整 ②水俣病情報センターにおける情報発信の運営業務 ③歴史的資料の管理、などの業務を行なっています。

(室長)三宅俊一　(国際係長)新垣たずさ　(情報係長)槌屋岳洋
(主査)勝田孝　(主査)杉田高行
(事務補佐員)福田光春、立作まゆみ、立丸京子
(清掃)山口鶴代、田中則子

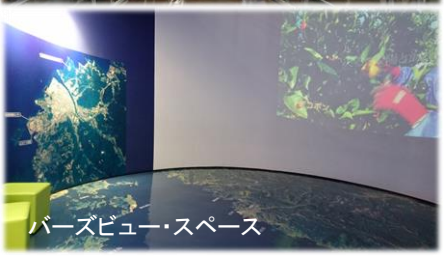
①NIMDフォーラム、国際連携

「NIMDフォーラム」（当センター主催）は、海外もしくは国内で毎年開催しています。本年度は11月１日から２日にかけて、水俣病情報センターで開催し、海外研究者５名、国内研究者７名が最新の知見を発表し、活発な意見交換が行われました。また、 地球規模の水銀汚染に関する国際会議（ICMGP）への参画をはじめ、国際連携・貢献に関する業務を行っています。

この１０年で、当センターへは約100名の海外研究者を招聘しているほか、JICAやUNEP等が行う海外の研究者・行政官等の研修も、積極的に受け入れています。

②情報発信業務

水俣条約特別展


バーズビュー・スペース

水俣病情報センターは、平成13年に開館し、水銀及び水俣病に関する研究で得られた情報、世界の水銀による環境問題等の情報を展示、発信しています。

１階のバーズビュースペースでは、水俣の自然や四季の風物詩、空からの映像などを放映しています。

２階の講堂は、国際会議の開催、諸会議や講演会、また水俣病資料館との連携により多人数向けの語り部講話の開催など、幅広く利用されています。

講堂

③歴史的資料の管理

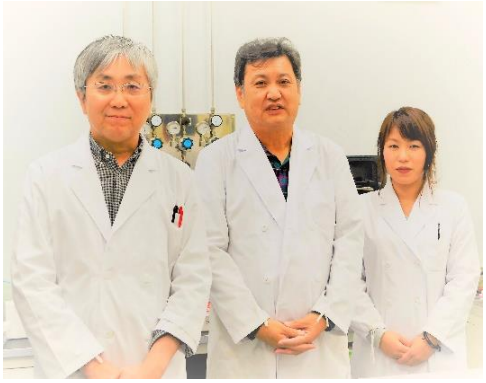
平成23年3月、公文書等の管理に関する法律施行に伴い、水俣病情報センターは、歴史資料等保有施設に指定（内閣総理大臣指定）されました。

寄贈された貴重な資料をはじめ、保有する資料の目録作成、デジタル化を進め、研究利用に供するための整備を行っています。

常設展示室

水銀分析技術研究室

2019



水銀分析技術研究室の取り組み

当室は松山、原口、横井の3名が研究開発に取り組んでいます。

◆主な研究内容◆
・開発途上国への水銀分析技術の移転と簡易・効率化
・水俣発の標準物質の作製（水銀分析精度管理技術協力）
◆主な業務内容◆
・ISO運用、分析精度管理及び研修

これらの研究・業務を所内の研究員や各政府関係機関と連携しながら進めています。

①開発途上国への水銀分析技術の移転と簡易・効率化

遠隔地における継続的な水銀曝露評価と水銀汚染監視強化の実現を目指して、ヒト・バイオモニタリングの有用な指標になり得る毛髪中水銀分析及びWHOガイドライン確認に必要となる飲料水中水銀分析を対象に、水銀の計測技術の簡易化を目指しています。2016年からはニカラグア政府へのJICA技術協力「水銀調査・分析能力向上プロジェクト」として主に塩素・苛性ソーダ工業に起因する湖の水銀汚染への研究支援を行いました。

【分析研修】

【標準物質】

②水俣発の標準物質の作製（水銀分析精度・管理技術協力）

化学分析を行う際の基準には標準物質が用いられており、土壌、魚介類、毛髪、血液等に関するものがあります。標準物質は水銀が人に及ぼす健康リスクを評価をする際、信頼性の高い分析結果を保証するものになります。世界保健機関（WHO）の研究協力センターとして、当室では人体の毛髪（メチル水銀曝露指標）及び尿（金属水銀曝露指標）の標準物質を開発しています。来年度以降を予定する頒布によって、分析機器の校正や分析担当者の技能評価等の適正化を促進し、分析精度保証と精度管理強化を図ります。

③ISO運用、分析精度管理及び研修

水銀汚染からヒトの健康と自然環境を保護するために、当室では水銀分析研修機能の充実を図るとともに、加盟諸国間での試験データ受け入れ（相互承認協定）を可能とするISO17025を取得しました。信頼に足る分析能力を証明しつづけるために、品質マニュアルを運用し、定期的にISO監査を受け入れています。

【ISO/IEC17025認定証】

2．イベント情報

◎創立40周年記念事業を開催しました！

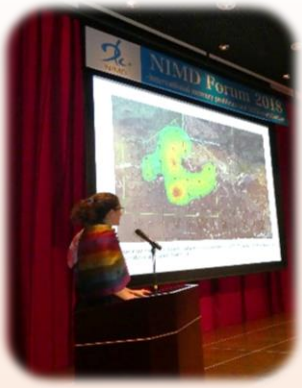
平成30年11月1日（木）10時より、創立40周年事業を情報センターにて開催しました。約130名の出席のもと、来賓代表として髙岡利治水俣市長よりお言葉をいただき、ビデオ上映による「国水研の歩み」の紹介、「水俣高校生による研究発表」、「専門家による健康講話」を行いました。

祝辞を述べる
髙岡利治水俣市長

水俣高校生研究発表
「水俣湾の現状～水俣湾を含む八代海域でのDINの季節的・地理的変動について」

国立長寿医療研究センター
島田裕之先生による講話
「地域ぐるみで取組む認知症予防」

◎NIMDフォーラム2018 を開催しました！



国水研創立40周年記念事業に引続き、平成30年11月1日午後から翌2日午前中にかけて、水銀に関する研究成果等を発表、共有するNIMDフォーラム2018を「国際的な水銀問題とNIMDの国際貢献」というテーマで開催しました。国内外の研究者12名からの活発な研究発表がありました。

昨年発効した「水銀に関する水俣条約」を念頭に、水銀簡易分析法や、国内外の水銀条約の実現に向けた取り組みの紹介の他、諸外国の水銀汚染の現状、化学形の異なる水銀による人体暴露が及ぼす健康影響等、多岐にわたる内容が発表されました。

次回のNIMDフォーラムは、今年の9月15日から19日に京都で開催される国際会議（The 18th International Conference of the Pacific Basin Consortium for Environment and Health）で開催する予定です。

【水俣病情報センター便り】

○展示コーナーに移動椅子（キューブスツール）を設置しました。

来館者の皆さんが展示をゆっくりと見学していただけるように、移動椅子（キューブスツール）を１階のバーズビュースペースと２階のロビーに合計１２脚設置しました。バーズビュースペースでは水俣の映像をご覧いただく際に、２階ロビーでは見学中の休憩などに、ご利用ください。

【1階バーズビュースペース】

【2階ロビー】

国水研の動き　（平成30年8月～平成31年1月）

【平成30年】

8/ 2　国際環境パートナーシッププログラムの受入れ（台湾）
8/16　地域医療特別実習の受入れ
8/22　福岡女子大学水俣研修の受入れ
8/27-28　HIGOプログラムインターンシップの受入れ
9/ 3　中央大学水俣研修の受入れ
10/19　JICA多媒体水銀モニタリング研修の受入れ（マレーシア、他5か国）
11/13　環境問題史研修（地方公共団体職員向け）の受入れ
11/14-15　筑波大学水俣研修の受入れ（ベトナム）
11/20　UNID水俣観察パイロットプログラムでの講義（バングラデシュ、他15か国）
11/27-28　環境問題史研修（環境省職員向け）の受入れ
12/ 5　九州地方環境パートナーシップオフィス水俣研修の受入れ
12/12　さくらサイエンスプラン水俣研修の受け入れ（シンガポール、タイ、台湾）

【平成31年】

1/21-22　水俣病経験の普及啓発セミナーの受入れ（ブラジル、他7か国）
1/25　環境省九州地方環境事務所水俣研修の受入れ

【編集後記】

広報誌は1997年4月より「国水研だより」として発刊を開始し、途中「とんとん峠」を経て現在の「NIMD+you」に刷新され22年が経過していました。広報誌作成に携わり始めてまだ2年と新米の身ですので、この22年の歴史も見返しながら今後の誌面作りに取り組みたいと思います。　（中村篤）

2019.3　NIMD + you　vol.47
【編集・発行】
環境省国立水俣病総合研究センター
〒867-0008　熊本県水俣市浜4058－18
TEL　(0966)－63－3111
FAX　(0966)－61－1145
ホームページ　http://nimd.env.go.jp
Facebookでも情報発信しています！

NIMD

国立水俣病総合研究センター（NIMD）のロゴマークです。

「水」の字をもとに、水俣の川と海をイメージし、また左側は「大人」、右側は「胎児」と水俣病で犠牲になった方々をも表しています。環境汚染による被害が二度と発生しないよう思いを込めて、「本来あるべき美しい自然の色」である水色や緑色で表現しました。

NIMD
：**N**ational **I**nstitute for **M**inamata **D**isease

アクセスマップ

【国水研へのアクセス】
- みなくるバス：青バス湯の児線
　⇒とんとん峠下車　700m（徒歩約12分）
- JR 新水俣駅から5.5㎞
- 肥薩おれんじ鉄道 水俣駅から4.6㎞